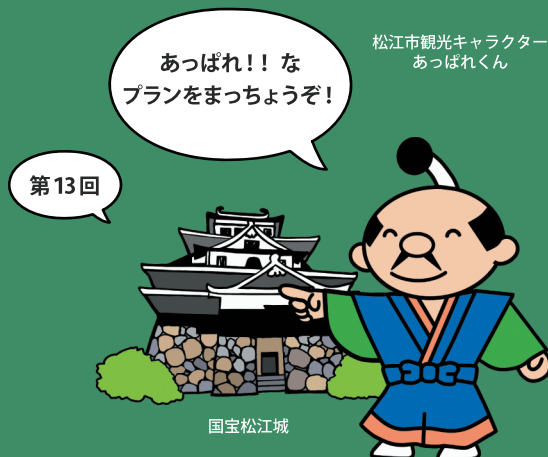


Matsue Open Source Business Plan Contest 2021

<https://www.shimane-oss.org/biz-contest2021/>



松江市では、オープンソースのプログラミング言語「Ruby」を松江市の重要な資源と位置づけ、産学官による産業振興施策「Ruby City MATSUE プロジェクト」を推進しています。同プロジェクトの一環として、オープンソースによる地域振興の中心を担う「しまね OSS 協議会」と松江市は、今年度第13回目となる「松江オープンソース活用ビジネスプランコンテスト」を開催します。本コンテストは、IT 業界にとどまらず幅広い分野の人達にオープンソースの情報を広く提供し、オープンソースを活用するプランをアイデアから形にすることで、オープンソースを活用した新しいビジネスプランを事業化・起業化へ繋げることを目的とします。本コンテストを通じ、松江市が「Ruby と OSS のまち」としての存在感が高まり、応募プラン・受賞プランが企業等とのマッチングの機会となることで、具体的なビジネス化へ向けた動きとなることに期待します。

ビジネス活用部門

最優秀賞 (1名・団体) 賞金 **20** 万円

優秀賞 (1名・団体) 賞金 **5** 万円

原則として、個人 (一般) での応募とし、3人までのチームの応募も可能です。

学生部門

最優秀賞 (1名・団体) 副賞 **5** 万円

優秀賞 (1名・団体) 副賞 **3** 万円

学生が対象。個人もしくはグループ・団体での応募とし、グループ・団体の人数は問いません。

【募集期間】

2021年 1月12日 (火) 正午まで

【最終審査会】

2021年 2月20日 (土) 13:00~
松江オープンソースラボ

【応募方法】

<https://www.shimane-oss.org/biz-contest2021/> から所定の応募用紙をダウンロードいただき、必要事項を記入の上、事務局まで電子メールでお送りください。



【審査委員】

豪華審査委員が最終ノミネートされたビジネスプランを審査します。詳しくは、裏面をご覧ください。



2020年 最終審査会



2020年 受賞者の皆さん

【主催】松江オープンソース活用ビジネスプランコンテスト実行委員会 (しまねOSS協議会・松江市)

【後援】鳥根県、公益財団法人しまね産業振興財団、国立大学法人鳥根大学、独立行政法人国立高等専門学校機構 松江工業高等専門学校、山陰合同銀行、日本政策金融公庫松江支店

【問い合わせ先】松江オープンソース活用ビジネスプランコンテスト実行委員会事務局 (松江市産業経済部まつえ産業支援センター内)
担当：曾田、本田 ☎690-0816 松江市北陵町1番地 電話：0852-60-7101 Eメール：oss-contest@city.matsue.lg.jp

【コンテストの流れ】

＜一次審査＞ 2021年1月12日(火)の募集締切後に応募書類を基に審査します。

＜最終審査会＞ 一次審査通過者は最終審査会(2021年2月20日)に進みます。
最終審査会ではビジネスプランを発表いただき、審査をします。

～豪華8名の審査委員が、あなたのビジネスプランを審査します～

審査委員長

しまねOSS協議会 会長

井上 浩氏

審査委員

株式会社万葉 代表取締役

大場 寧子氏

日経BP社 技術メディア局 局長補佐

中村 建助氏

株式会社スマートスタイル 代表取締役

野津 和也氏

デロイトデジタル 執行役員

森 正弥氏

しまねソフト産業ビジネス研究会 代表

吉岡 宏氏

株式会社インターネットイニシアティブ

システムクラウド本部サービス統括部 サービス統括課長

土岐田 尚也氏

山陰合同銀行 地域振興部長

森 保志氏



松江オープンソース活用ビジネスプランコンテスト 2020
ビジネス活用部門最優秀賞受賞

濱名 慶伍 氏

島根県に移住した実体験から、アイデアを考え応募させていただきました。提案したアイデアは、現在形を変えて世に出ています。

私は IT エンジニアではないため、最初は応募する気がありませんでした。発表にこぎつけられたのは、多くの方々の支援があったおかげです。貴重な経験をさせていただき、本当に感謝しております。

「ITは詳しくないけどアイデアはある」というあなたも、諦めずぜひ挑戦してみてください。素晴らしいビジネスが島根から生まれることを祈っております。

松江オープンソース活用ビジネスプランコンテスト 2020

学生部門最優秀賞受賞

清間 志音 氏、富金原 桃香 氏、 竹下 那菜 氏、大野 美咲 氏

(松江工業高等専門学校) ※受賞当時

私たちは、なにか新しい方法で、仮想空間を体験できないかと考え、このPM ショップ(応募プラン名)を、考えました。夢物語のような大きなプランで、経営者の方々の前でお話させていただくのは恐れ多く、不安と緊張でいっぱいでしたが、このような貴重な体験をさせていただき、多くのアドバイスを頂けて、とても幸せな一時でした。今回経験させていただいたこと、経営者の方々からアドバイスいただいたことを活かして、これから先も色々な事に挑戦していきたいです。

